

会派研究研修報告書

平成31年3月28日

常滑市議会議長 殿

会 派 名 翔政会

会派の代表者 稲葉 民治



会派等の研究研修報告を次のとおり提出します。

記

- 1 期 日 平成31年1月29日（火）～30日（水）
  
- 2 視察地 1月29日（火）  
広島県広島市ジアウトレット「イオンの新たな事業展開について」  
1月30日（水）  
愛媛県松山市「消防団の充実について」
  
- 3 視察者 稲葉民治（代表） 中村崇春 伊奈利信 森下宏 加藤久豊
  
- 4 行 程 別紙1のとおり
  
- 5 視察費 別紙2のとおり



## 平成30年度 翔政会 視察報告書

## 1. 平成31年1月29日（火）

視察地

①広島県広島市ジアウトレット

「イオンの新たな事業展開について」

平成31年1月30日（水）

②愛媛県松山市

「消防団の充実について」

## 2. 視察者

稲葉民治（代表） 中村崇春 伊奈利信 森下宏 加藤久豊

## 3. 視察行程表


平成31年1月29日（火）

07時07分	常滑駅	ミュースカイ一部特急
08時13分	名古屋駅	のぞみ5号
10時51分	広島駅	
10時59分	西広島駅	
11時30分	アウトレット着	
13時00分	アウトレット視察	イオンの新たな事業展開について
15時30分	アウトレット発	
15時50分	広島港着	
16時30分	広島港発	高速船利用
17時38分	松山観光港着	
18時00分	ホテル	ダイワロイネット松山(2016年竣工) 〒790-0001 愛媛県松山市一番町2丁目6-5 電話：089-913-1355

平成31年1月30日（水）

11時30分	ホテル発	
13時30分	松山市視察	消防団の充実について
15時30分	視察終了	
15時40分	松山空港へ	
16時00分	松山空港着	
17時15分	松山空港発	ANA3158
18時15分	中部国際空港着	
	解散	

1. 視察報告

視察①	
視察地	広島県広島市ジアウトレット
視察日時	平成 31 年 1 月 29 日(火) 13 時 00 分から 15 時 30 分
視察目的	イオンの新たな事業展開アウトレットモールの動向と常滑市りんくう町進出の可能性について調査研究
説明者	ジアウトレットゼネラルマネージャー
調査趣旨	<p>イオンモールによる大型商業施設の新業態「ジ アウトレット 広島 (THE OUTLETS HIROSHIMA)」(広島市)が平成 30 年 4 月 27 日グランドオープンしました。開店当日は約 5,500 人が並び、24 日のソフトオープンでは、すでに広島市内の住民約 13 万人が来場したそうです。</p> <p>地域創生型商業施設と位置付ける同モールは、「本格アウトレット」「エンターテイメント」「地域との出会い」の 3 つのコンセプトを柱に、既存のイオンモールとは一線を画すだけでなく、物販と飲食で構成された他のアウトレットモールとも差別化を図るなど工夫もあり、レストランやフードコートでは広島名物や瀬戸内・山陰の特産品売り場など地元色を出しています。</p> <p>今回の視察では、イオンの新たな取り組みが成功すれば、今後、<u>常滑市りんくう町北街区でのイオンモールの新たな事業展開も可能性としてゼロではないことから、新たな先導的施設を見学することにより、常滑市のりんくう町活性化の一助とすべく調査研究のため視察します。</u></p>
写真	
質疑	<p>問・アウトレットを始めた経緯を教えてください。</p> <p>答・近隣に複数のイオンモールがあり互いに影響が及ばないようにするため、アウトレットを選択した。</p>
所感	(稲葉) りんくう町の空き地利用のための視察であったが、アウトレットモールはこれからの常滑市に必要であり、賑わいの創出に大きく

	<p>寄与すると感じた。</p> <p>(加藤) 今回、広島市にオープンしたジアウトレットモールを視察した。このアウトレットモールはイオンが主体となり整備され、オープンから賑わっているとのこと。視察目的である常滑市りんくう町への進出の可能性を探るための視察であったが、新規出店にはコスト面など課題も多くあったが、新たなりんくう町の賑わいのためにぜひ誘致に向けて取り組みたいと感じた。</p> <p>(森下) 丘の上に「イオンモール」があったので少しびっくりした。近くの住民が買い物に来ていたが、客数が少ないように見えた。(ウィークデーでもあったが。)</p> <p>また、あの大きな建物に多くの商品が並んでおり、よほどの客数を増加させないと困るのではないかと思われた。</p> <p>(伊奈) イオンでは初となる業務形態で平成 30 年 4 月にオープンした施設を訪問。国内のアウトレット市場の売上げの今後の上昇推移 (9,000 億円) を背景に、県内、近隣県からの交通アクセスや、国内旅行者、インバウンドなど集客が見込める立地条件から計画を進める。広島市内に既に 2 つのイオンモールが存在するが売上げには影響していない。客層が違う。店舗のグレードや売品が違う。(ブランド品など) 家族で一日楽しめる施設「アウトレットを、もっと自由に」。</p> <p>車での来客が多く、週末や休日、連休には周辺道路で渋滞が発生している。約 4,000 台の駐車場も満車状態になる。</p> <p>(中村) 民間が開発した地域にイオングループとして初のアウトレットモールであり、新たな試みとして始めた施設である。新規客の掘り起こしなど、地域や客層において既存のイオンモールとは異なり、成功と言えるのではないか。休日は周辺道路が渋滞となり、今後は道路の拡充が課題と思われる。</p>
常滑市への反映	<p>(加藤) 今回の視察事項を念頭に、県企業庁や市に働きかけていきたい。</p> <p>(森下) 常滑の「イオン」には最近映画館を作ったが、「ジ アウトレット 広島」にも、映画館はあった。入場者の「入り」を聞くと、あまりお客さんの「入り」は、よくないようである。なぜ、映画館を創るのかよくわからないが、少しでも賑わうように色々試すのは必要だと思う。</p>

(伊奈) 現在のイオンモール東側の敷地(10.8h)の今後について、立地条件(交通アクセス、中部国際空港、イオンモール、コストコ、めんたいパーク)からアウトレットの進出も十分に考えられる。また、イオンのアウトレット以外でもVIPホテルなどの企業進出を期待する。

(中村) りんくう町の今後の発展も考え、周辺道路の整備や拡充を行うことは企業進出や常滑市全体の賑わいに繋がると考える。

視察②	
視察地	愛媛県松山市
視察日時	平成 31 年 1 月 30 日(水) 13 時 30 分から 15 時 30 分
視察目的	消防団の充実について調査研究
調査趣旨	<p>全国でも消防団活動の先進地として、松山市消防団は、団員の増強や機能別消防団の導入など地域における消防団活動に力を注いでいます。</p> <p>消防団員の定数は合併前の 1,400 人から 2,301 人に増員されたことを皮切りに、その後も平成 20 年 12 月に 150 人増員して 2,451 人に、平成 25 年 4 月に 50 人増員して 2,501 人に、さらに平成 30 年 4 月に 50 人増員して 2,551 人となっています。</p> <p>特に女性消防団員の活躍はまさに先進地で、松山市の女性消防団員は、平成 14 年 4 月に 60 人でスタートし、平成 23 年 4 月 1 日に、松山市消防団 41 番目の分団となり名称も新たに「女性分団」として 96 人体制での活動となりました。また、平成 30 年 4 月から女性副団長も誕生しています。</p> <p><u>常滑市においても消防団の充実を図ることは大きな課題であり、消防力の強化は安心安全のまちづくりにもつながることから、先進地を視察し、将来の常滑市の消防団強化の一助としたいと思います。</u></p>
説明者	松山市消防本部職員
写真	
質疑	<p>問・避難所マニュアルについて伺いたい。</p> <p>答・主に学生団員や女性団員が運営や弱者対応を訓練している。</p> <p>問・『防災まちづくり大賞』の応募は市の方針か。</p> <p>答・市全体の方針で、可能ならこれからも毎年応募していく。</p> <p>問・予算が膨大にかかっていると思うが、詳細をお聞きしたい。</p> <p>答・経費削減しているが、人件費だけは死守している。</p>
所感	(稲葉) 人員不足の続く常滑市消防団に対し、定数を増やしている松

	<p>山市消防団は市全体の消防団への雰囲気や対応が良く、団員の種類も多いため入団者が多い。常滑市も大いに参考になる視察だった。</p> <p>(加藤) 松山市の消防団の充実は他の自治体の模範となる施策であり、年々消防団員が増加している。消防団に対する市の取り組みや意識の高さに驚いた。とても参考になる視察であった。</p> <p>(森下) 説明や資料によると、組織がしっかりしており、また、消防団員増加対策として、いろいろユニークな対策やアイデアを行っている。</p> <p>(伊奈) 団員のなり手不足が進む中、郵政消防団、大学生消防団、事業所消防団、ファイヤーレディースなどの採用に取り組む。これらは機能別消防団であり、災害(地震)時や避難所開設時のサポート、離島での消火活動などに対応する。</p> <p>女性消防団員は事務、住民指導、防災訓練、応急手当、啓発活動を中心に活動する。</p> <p>研修や資格取得のほかにも団員応援事業(IC機能付団員証、協力店舗の割引や優遇、年会費無料のGカード、応援自動販売機など)も充実している。大学生団員には就職活動時で効果のある消防団員活動認証を市が発行している。</p> <p>消防庁の「防災まちづくり大賞」へ積極的にエントリーしている。市全体で連携して取り組んでいるのがよく分かる。財団の設立から取り組みまで紙資料と映像により、分かりやすく説明を受けた。</p> <p>(中村) 消防団員数増加のための取り組みが非常に多い。機能別消防団として企業や学生、女性を団員として採用していたり、団員応援事業も積極的に行っている。消防団応援店舗は常滑市もあるが、登録数が大きく異なる。そして、『防災まちづくり大賞』に積極的に応募しており、市民も消防本部も防災の意識が高いことがうかがえる。日本全国から視察が多いのも当然の取り組みをしており、先進地域として大いに参考となった。</p>
常滑市への反映	<p>(加藤) 松山市の取り組みなど消防へ伝え、地域の防災力強化を強く促していきたい。</p> <p>(森下) おもしろい例として、消防本部の建物の前の自販機には、「1本買うと、〇〇円消防団に寄付されます、との説明があり、よく売れているとのことだった。常滑市でも導入する価値はあると思う。</p>

(伊奈) 機能別として郵政、事業所、女性団員の制度は導入、拡充が可能と考えるため検討されたい。団員特典は取組んでいるが更に充実されたい。

(中村) 常滑市消防団は定数にも達しておらず、入団希望者も少ない。消防団の評価を上げ、市民が誇りと思えるように広報してもらいたい。松山市消防団の認知度と評価が高いことや防災と関連して活動していることが団員数の多さに繋がっていることは明確であり、そのための取組みも行っている。常滑市が最も見習う部分であると考えている。